

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホームひだまりの家	ユニット名(1階)
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員1086-1		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成 30年 5月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873400378-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かなところにあり、近所の方が四季を感じられるように庭の土手に花々を植えて下さっている。秋祭りでも近隣の方々に参加して頂いたり、地域のお祭りや運動会にはすすんで参加し、地域との交流を図っている。施設内においては一人一人に合わせた寄り添う介護を心がけ、アットホームな雰囲気生活している。毎月の行事には力を入れており、レクリエーション担当が毎月催し物を行っている。ご家族も気軽に来られ自由に面会したり外出に連れ出して頂いたりして自由な空間を提供している。また看護師の連携が密で、毎日の充実したケアが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな場所に立地し、四季の移り変わりを楽しめる場所になっている。地域住民の協力で、事業所の近隣に防火水槽が設置されるような、良好な関係が構築されている。職員は笑顔で利用者の支援に努めているとともに、事業所内は整理整頓がなされ、快適な空間になっている。地元の野菜等を使用した手作りの食事は利用者にも好評を得ている。事業所内で発生したヒヤリハット事例を公開し、情報を共有して、再発防止に努め、利用者がより安全に過ごせるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、事業所理念と年間の理念を作成し朝礼の際、皆で唱和している。	事業所理念のほかに年間理念も作成して、利用者一人ひとりに寄り添う介護に取り組んでいる。理念は玄関や各ユニットに掲示して意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の秋祭りでは近隣の方々に来ていただいたり、出演者として踊りにも参加していただいた。	事業所の秋祭りに近隣の方々を招待したり、町内の祭に招待されるなど、交流している。地域住民より野菜等の差し入れがあるほか、隣地に利用者が楽しめるようにと、季節の花を植栽してくれるなど、良好な関係を築いている。和太鼓や踊りのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で現状を報告し、説明をしながら地域の方に認知症への理解を求めている。また施設長が認知症サポーター講師として地域の方々に知識と理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、行事の報告等現状を伝えており、意見や提案を生かしている。ボランティアの支援や外出したときの支援等依頼したり地域の方の認知症についての相談窓口として利用してもらえるようお話ししている。	家族等や市職員、民生委員等が参加して2ヶ月に1回開催し、報告を行い、委員からは様々な意見や情報を得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に施設長が日頃より介護保険課、福祉事務所、社協などと連絡を密にとり、空床があった際には情報交換をして依頼している。また管理者も要介護申請の情報を得たりして市との連携がとれるよう随時訪問している。	市の担当窓口には、施設長や管理者が随時訪問し、要介護保険更新情報や生活保護受給者の相談、介護保険に関する助言を得るなどしている。市主催の研修会に積極的に出席するとともに、施設長が認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、良好な関係作りを努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいるがやむを得ない場合、運営基準で定められている身体拘束に関する条件を満たしているかを判定し、経過を記録するようにしている。各スタッフが身体拘束をしないケアの実現に向けて取り組んでいる。	廊下に身体拘束排除に向けたポスターを掲示して、啓発に努めている。社内研修を通じて、身体拘束の具体的な事例や弊害を理解し、身体拘束のない支援に努めているが、研修会は定期的に開催されるまでには至っていない。	定期的な研修開催を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学びあい、どういことが虐待なのかを各スタッフが知り、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の入居者様で該当している方がおり、社協や福祉事務所と連携を取り制度を利用している。市町村の主催する研修にも参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設長や看護師のもと説明を行ったうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人やご家族がつぶやいたことや、頂いたご意見はケース記録に記載してもらっている。またご家族に無記名のアンケートを出し、意見や要望を幅広く聞き出している。	家族会の会長を苦情相談受付窓口としているほか、意見箱を置いたり、家族アンケートを取るなど、様々な方法で家族等からの意見や要望を聴いているが、家族アンケートの結果を整理し、活用するまでには至っていない。	家族アンケートで得られた情報を整理し、家族等に報告するとともに、全職員で情報を共有し、活用するシステムの構築を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から、職員の意見を聞くように努めている。ミーティング等で意見が出たものはスタッフで把握し検討するようにしている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員会議時などに職員からの話を聴く機会を設けている。年1回社長との職員面接も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年1年間のそれぞれの勤務実績を把握し、年末に表彰を行っている。年度初めに毎年個別面談を社長と行って意見や要望を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には意欲的に取り組み、それを法人内で伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸太田市の連絡協議会を通じてさまざまな研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでは本人、ご家族ともよく関わりを持って意見、要望、これまでの生活歴など聞き出し、良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の思いを聞き取りアセスメントを行いご家族が困っていることに耳を傾け本人もご家族も納得して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスについては施設長、看護師間でよく話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する、という観点で仕事をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に何か変化があった時には随時ご家族に、報告、相談しどのようにみていくか話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階の方は外出する機会が少なく、以前より触れ合う機会が少なくなったが近所の方やなじみの人が訪問してくださるので、今後も来ていただけるよう声掛けしている。	入所前の相談時や入所時の聴き取りから情報を得て、職員間で共有している。馴染みの店や自宅等に外出をするなど、関係が途切れないような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年末年始、入退所が何件かあったため、利用者同士が良い関係を築けるように、1階と2階のメンバーの入れ替えを行った。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係を大事にしている。先日、あるご家族が契約が終了したあとも衣類やタオル等を提供して下さった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にもあるように、一人ひとりの意向に沿った介護を心がけている。本人が思いをつぶやいたときには、ケース記録に記入しスタッフ間で共有するようにしている。	利用者からは日々の支援の中から、意見や要望等を聴いて、ケース記録に記録し、情報の共有に努めている。思いを表出することが困難な利用者の場合には、表情や仕草、つぶやき等から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、入所時にミーティングにてどのようにかかわっていったらよいか話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの現在の身体の状況や、認知の進み具合など、看護師や介護スタッフと確認しあい、どのようなケアがよいのかそのつど把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人の意向をもとに、計画作成担当者と職員でミーティング等で話し合い、作成している。現在6か月ごとに長期目標を設定しモニタリングしている。	家族等や利用者の意向を基に、看護師の意見を聴き、計画を作成している。半年ごとにモニタリングを行い、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの実践は主にケース記録に記入している。また申し送り事項を別に記入し、職員全員が閲覧して把握をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りが導入され、さまざまな状況が出てきているが、そのたびにご家族とかかりつけ医師とスタッフとが話し合い、どのようにサービスを提供するか決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然が豊かで空気も良く、静かなので天気の良い日は日向ぼっこや散歩に出て気分転換をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、今までの経緯などを聞き、そのうえでかかりつけ医を決めている。	契約書にかかりつけ医への受診が可能なことを明記し、支援している。協力医療機関への定期的な受診が月1回ある。家族等が付き添う場合には、家族等に日々の健康状態を説明し、医師に伝えており、協力医療機関へ受診する場合は、看護師より説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が入居者一人一人の健康状態をチェックしており、介護スタッフは気づいたことは必ず看護師に報告、相談している。そのうえで、管理者、看護師間で話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に看護師や施設長、管理者が医療機関に赴き、状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成28年より看取りを導入し、取り組んでいる。今現在も看取り対応の方がいらっしゃるが、その都度、本人の状態を支援記録として残し、何か変化があった際にはご家族や医療機関と話し合いをもちその後のケアの方針を決めている。	重度化や看取りに関する同意書があり、状況の変化に応じた繰り返し話し合いと、段階的な合意を行っている。職員は外部研修に参加しているほか、内部研修も受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の際に講習を受け、学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前、地元消防団や近所の方にも訓練に参加してもらい避難訓練を実施した。今年度は地域の方の参加はなかったが、反省点を記録し、次回につながる訓練ができた。火災想定が多いので、次回は地震等の災害訓練も実施したい。また備蓄品リストを作成し管理するようになっている。	避難訓練を年2回行っているが、火災想定に留まっている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。備蓄品は一覧表を作成して保管している。	夜間想定や地震想定を含めた避難訓練の実施と住民の参加が得られるような訓練日の設定等の工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、敬いながら対応している。個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、また本人のファイルも目につかない様カーテンで目隠しをしている。	内部研修を行い、人権尊重や守秘義務について理解している。個人情報に関する同意書を整備している。個人情報に関する書類は鍵のかかる部屋で保管、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが日頃より声掛けをし、本人の意向をくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように、一人ひとりに合った健やかで穏やかな生活を実現するためにその人に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアや外出時などは身だしなみに気を使い、本人が少しでも生き生きと生活できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より出来る事の幅が狭くなり、見守りが必要になっているが、出来る人には一緒に食事の準備や片付けをしてもらっている。1階の方は車椅子が多いが食器拭きなど率先してやってくださっている。出来る時には一緒に食事を摂り食事の感想を話したりテレビを見ながら談笑して和やかな時間を過ごす。	職員が、利用者の嗜好に合わせて献立を立てて調理している。利用者は出来ることを手伝い、おやつ作りも利用者の希望を聴いて行っている。季節毎の行事食や外食を楽しみのひとつとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に記録し、各スタッフが把握、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後に、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。立位が困難であっても出来る限りトイレで排泄して頂けるようにぎりぎりまでトイレへの誘導を心がけている。	排泄チェック表や個人記録から把握した排泄パターンに合わせ、さりげない声かけをして誘導し、できるだけトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分でなるべく便秘にならないよう働きかけているが、なかなか排便がない方にはお薬等で促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前より重度化、スタッフ不足が進み、入浴がなかなか出来ない日が多くなってきている。それでも入浴を楽しんでもらえるように、季節に合ったしょうぶ湯やゆず湯など時期に合わせて実施している。(スタッフが家からゆずを持ってきていただったりして…)	基本週2回の入浴を行っている。車イス対応のシャワーチェアを用意したり、入浴剤や柚子湯等で季節感や入浴を楽しめるよう工夫している。体調に応じて、清拭や足浴等に切り替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールには段差のついた畳があり、入居者はよくそこに座って休まれる、スタッフと一緒に畳の上で休息をとり、一緒に談笑している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については看護師がよく理解しており、何か変化があれば申し送りして全スタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月必ず、レク担当のもとで季節の行事、誕生会を実施している。そのときには食事のメニューも工夫を凝らし、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出支援には以前から力を入れてきたが、入居者様の全体的な高齢による体力の低下や、猛暑、寒さなどで遠出が出来なくなってきてしまった。が近場でも楽しんで頂けるよう気候のよい時期にはなるべく外出を計画している。先日も寒い中ではあったが皆で初詣に出かけたり、花見やドライブ、紅葉狩り等季節に合った外出を実施している。	体調に配慮しながら、近隣に散歩して外気浴を楽しんだり、ドライブを兼ねて近隣のスーパーマーケットに出かけたり、自家菜園での季節の野菜栽培を行ったりしている。ボランティアのサポーターが外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かりし、たてかえをしているが、本人の希望によっては少額を持たせ所持したり、事務所で預かっていることをお伝えし安心して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば随時連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	おもての玄関にはテーブルやイス、季節の花々を置き面会にこられたご家族が気軽に利用できるようにしている。また入口玄関にも季節の花々、ホールには入居者様による手作りの飾りやカレンダーなどを貼り季節感を感じられるようにしている。	玄関には椅子やテーブルが置かれ、家族等の来訪時には気軽に利用できるよう配慮されている。食堂兼居間は温度管理がされた快適な空間になっており、和室では利用者がゆっくり語り合えるようになっている。廊下には手すりや設置されるとともに、随所にソファが置かれ、利用者が座って会話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、座れるたたみを利用して思い思いの場所で過ごせる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の際にご家族にはなじみの物を持ってきていただくようお願いしている。それぞれ使い慣れた家具や布団、電化製品等持ち込んで頂いている。仏壇やご家族の写真など持ち込んでいる方もいて居室でも快適に過ごせる様本人本位で過ごして頂く。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、押入れが備え付けられている。利用者はそれぞれ使い慣れた家具や布団、電化製品等の持ち込みをし、自宅と同様に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階の方は車椅子が多いためホールや廊下などは広々と使えるように配慮している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームひだまりの家

作成日 平成 30年 5月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束については、ある程度の知識や重要性は研修等で把握しているが、定期的な研修はできていない。スタッフ全員が理解するには不十分な所がある。	身体拘束の適正化を図って、スタッフ全員が重要性を認識するようにする。	身体拘束についての研修を定期的実施するようにし、スタッフ全員が理解した上で関わられるようにしていきたい。	3ヶ月くらい
2	6	無記名の家族アンケートを取ることで、具体的な意見や思っていることを知ることができたが、アンケートの集計結果を出して返信するまでには至っていない。	家族の意見や思いを知ることにより、出来るだけ反映できるように、スタッフ全員で共有し本音で話し合える施設にしていきたい。	家族アンケートの集計結果を出し意見があった時はスタッフ全員で共有し、アンケートをお願いした時は、集計結果を家族全員に返信するようにし、家族と連携していく。	6ヶ月くらい
3	13	災害対策は、昼間の火災想定避難訓練を実施しているものの、夜間想定や地震想定避難訓練は実施できていない。	火災想定だけでなく、夜間想定や地震想定避難訓練もできるようにする。備蓄品リストを整理し、管理できるようにする。	夜間想定や地震想定避難訓練を実施し、反省する箇所を全員で話し合い、利用者様を避難できるように実践につなげていきたい。	6ヶ月くらい
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。